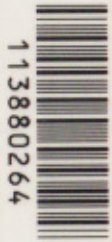


福羽西

1983

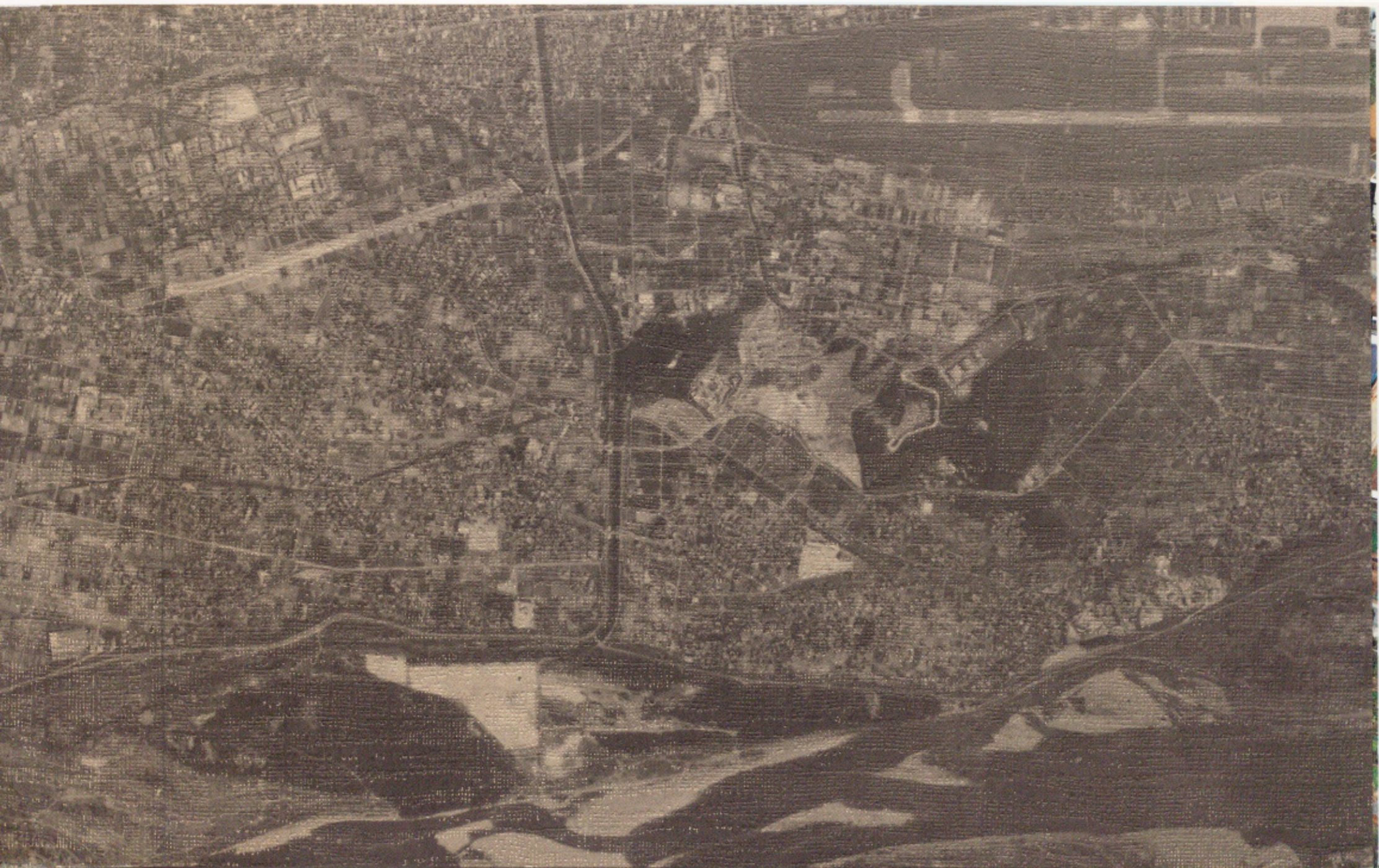


113880264

各務原市図書館









創立110周年 開校20周年

目でみる学校のあゆみ

各務原市立稲羽西小学校



全訳OS標準 5教科11立題

各科目の対策を各了目

各科目の対策を各了目







校歌

作詩 永純半助
作曲 安田重敏

一、冬務原に吹く風は
ゆたかな夢をほこる風
ひとみも若いかげやまに
希望の胸をほすまやして
伸びるよ 稲羽西小学校

二、木曾の流れに澄む水は
まことの心 磨く水
もたらしたつ力 結びあい
歴史のおしら受けついで
学ぶよ 稲羽西小学校

三、光にひらくこの窓は
花のおりがあやむ窓
いま羽ばたきもたふましく
世界のあすへ虹かけて
進むよ 稲羽西小学校







創立百十年・開校二十年を迎えて

各務原市立稲羽西小学校記念誌編纂委員長 赤地 節男
同 校 PTA会長

稲羽西小学校は、敬恪義校として明治六年五月に創立されて今年で百十年、各務原市立稲羽西小学校として開校二十年の校歴を刻んでまいりました。

本日は、はからずも、敬恪教室と更木教室とが合体をした記念すべき日に当たっております。このよき日に、市長さんをはじめ、教育長さんや多数の来賓各位をお迎えし、更に、特になつかしい先生方をおまねきし、親子ともども創立百十年、開校二十年の記念式典を挙げるができますことを、大変うれしく思います。PTA会員一同、誠にありがたく、深く感謝を申しあげる次第であります。

母校は、今から百十年前に、下中屋の地に「敬恪義校」として創立されました。伝え聞きますところによりますと、「敬恪」の文字が示す如く、「うやまい」「つつしむ」ことを、教育の信条として発足したのであります。以来実に多くの優秀な卒業生を送り出してきました。創立以来、校地や校名の変遷はありましたが、教育信条は変わることなく常に一貫して、代々学ぶ者によってひきつがれ、伝統として大きく地域に根づいてきました。そして現在も校下各地区の人々の心に脈々と生きつづけております。

昨年四月に、PTA総会に於て、母校百十年を記念して、本校発展の跡を省み、将来に向け一層の飛躍を期さんがため、記念誌の発刊を決議いたしました。以来、PTAの事業として全力を傾注し進めてまいりました。市長さんや教育長さん、教育委員の方や歴代PTA会長さん、同窓生の方々、更には校下の皆様から心あたたまるご支援・ご協力をいただき発刊をみました。これは偏に、皆様方の母校に寄せられる、よき伝統を継承しようとする情熱と、この地を愛し、教育のますますの発展を期しておられる発意の賜であると存じます。ここに記念誌発刊のために、ご尽力下さいました皆様に、厚く御礼を申し上げます。

本校創立以来、教育目標具現のために、幾多の困難をのりこえ、ひたすら児童のために、着々と教育実践を積み重ねてこられた代々の校長先生をはじめ諸先生方に、心から感謝の意を表する次第であります。

創立百十年の校歴は、一朝にして形成されたものではありません。私たちPTAとしてもかみしめてみる必要があります。

歴代のPTA会長さんを中心に、会員各位の良識と熱意を結集され、教育環境の整備や会員の学習等々総てに大きな実績をあげてこられました。こうした先輩の方々が残された実績を尊重し創立百十年、開校二十年を節目として、母校の光輝ある伝統と校歴に一段と精彩をはなつべく、更に力強いPTA活動を展開しなければならないと痛感しております。

母校のますますの発展を祈念し、お世話になりました皆様へのお礼といたします。



創立百十年・開校二十年を迎えて

各務原市立稲羽西小学校長 吉田 玲二

昭和58年2月初旬、校内音楽会を開催しました。300名を超える祖父母をご招待した楽しい会でした。その会の最後に、孫たちが提案をして、「大きな古時計」を祖父母、職員も一緒になって、大きな声で歌いました。

百年いつも動いていた ご自慢の時計さ おじいさんの生れた朝に買った時計さ
きれいな花嫁やってきたその日も動いてた 嬉しいことも悲しいことも皆知ってる時計さ
百年休まずに チクタク チクタク おじいさんと一緒に チクタク チクタク
今は もう動かない その時計

皆んなが心をつ一つにして歌いました。その歌の響きの中には、百十年の伝統と、先祖から受け継いだ遺産を更に高め、発展させようと願う力強さがありました。

本校は、百十年の間に、校地、校名が何回も変わりました。それは、日本が世界に大きく飛躍するために、社会が必要としたことであり、教育思潮がそうさせたのです。でも、そのたびに、学校の教育内容や施設・設備が大きく進歩しました。その理由は、父祖の時代から子弟の教育を大事にし、文化を愛し、伝統を重視する気風が、校下の皆さんにあふれていたからだと思います。

本校の教育の基本理念は、創立当時の校名“敬格”に象徴されております。人格を形成するために学ぶいろいろなことは、すべて“敬”から始まり、人間の行いはすべて“格”によってなされることを願ったものと思います。

このような格調の高い教育理念のもとで、学ばれました幾多の先達は、各方面で活躍をされ、母校の名をいよいよ高めておられます。誠に喜ばしいことであります。

特に、本校は、校下の産業と深いかわりのある図画工作を中心とした、情操教育（音楽）について、国、県、市の指定を何回も受け、それぞれの研究大会の会場校をも受ける等をして、教育界に大きく貢献をしてきました。

こうした輝かしい伝統を築きあげられました諸先輩はもちろんのこと、校下の皆さんのご理解とご協力に対して、心から敬意と感謝を申し上げます。

国際社会にたくましく発展する我が国の教育に対する課題は、世界の人々から敬愛され、信頼される市民を育成することであると思います。そうした意味から、本校の教育理念である敬格を、百十年の歳月を経た今こそ、心して努めねばならぬことと、決意を新たにいたしております。

創立百十年、開校二十年の記念誌発刊に当たり、本校にお寄せいただきました皆様のお心に対し、謹んでお礼を申し上げます。

この記念すべきときに、本校に勤めさせていただきまして、生涯における名誉なことと存じ、本校の発展のために微力を尽したいと願うものであります。



お祝いのことば

各務原市長 平野 喜八郎

各務原市立稲羽西小学校が、敬格義校として開校されてより百十周年、稲羽西小学校として二十周年の記念すべき年をお迎えになりましたことを心よりお慶び申し上げます。

明治四年（1871年）に、明治新政府によって、一時代を画した「廃藩置県」が漸行され、「文化革命」ともいふべき、新改革が、次々に行われていきました。

そしてその中の大黒柱として、翌明治五年に、「学制」の発布が行われ、「学事奨励に関する仰出され書」が公布されました。

その中に「学問は身を立つるの財本ともいふべきものにして、人たるもの誰か学ばずして可ならんや」とあり、更に「自今以後、一般の人民、かならず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめざるべからざるものなり」と、義務教育の重要性を強調して居ります。

かの有名な福沢諭吉先生の「学問のすすめ」もこの明治五年から逐次刊行されて行ったものです。

こういった状勢をうけて、翌明治六年五月に敬格義校が、木曾の清流に臨んだ環境抜群の地に、郷党の人々の熱い期待を荷って、誕生したものでした。以来、実に幾星霜、人民の自由と権利と幸福とを目指して、この名門校に学んだ幾多の人材が、地域社会はもとより、日本のためにも大きな貢献を致して来られたのです。

ここに、最近、私の読んだ書物で、感銘をうけたお話があります。

戊辰戦争の折、東北の会津藩が、新政府の大軍に包囲、猛攻され遂に落城し、生き残りの人達は、収容所に監禁されて居った時のことです。ここを脱出して、若し政府軍に捕へられれば、即、死が待っているのです。

その生か、死かの一髪の間を抜け出して、越後の碩学、奥平謙輔の下へ、新しい学問を教えてもらうために赴こうというのです。

脱出する少年、山川健次郎（後に、男爵、東京大学総長）も立派ですが、何ものよりも大切な自分の藩が滅亡の淵に臨んで、明日のことさえ分らぬ危急の時に、将来のため、有為な少年を新しい学問を学ばせるために、収容所より決死の脱出をさせた会津藩の素晴らしさに、私は深い感激を覚えました。

世が如何に移り変わろうとも、教育こそ国の将来を決する最大のものです。

記念すべきこの年に当り、今後、教鞭を執られる先生方と、PTAの方々と、そして、小学生の諸君が、しっかりと手を握り合い、心を通わせあい、更に更に、稲羽西小学校を素晴らしい学校として、無限の飛躍をとげさせて下さいますように、心からお祈りしお祝いの辞と致します。



発刊によせてお祝いのことば

各務原市教育長 水 口 一 也

稲羽西小学校は明治初年の学制発布により、敬恪義校として創立されてから百十年という永い歴史と伝統を誇り、各務原市制が布かれ校名も稲羽西小学校となって二十年を迎えられています。

たまたまPTAの事業として記念誌の発行が計画されましたことは、誠に意義深い事だと思心から敬意を表しております。

敗戦という大きな痛手をおった日本ではありますが、どん底から見事に立ち上って、今日、世界の中の経済大国として、素晴らしい成長を遂げました。

こうした日本の輝やかなしい発展の原動力は、なんといっても明治初年に私達の先人が教育立国を表明して、邑に不学の戸なく家に不学の人なしの精神に徹して、幾多の苦難の道をたどりながらも文字通り

その成果を取めた賜だと思えます。

西欧文化に追いつけ追い越せと文明開花にあけくれ、あの鹿鳴館時代まで出現して振幅の傾いたきらいもある日本でしたが、教育界にはしっかりしたすじ金が通っていました。

敬恪義校のその校名に示され、象徴されているように当時の人達の悲願にも似た根性を今更らながら尊く思っております。

敬恪とは、辞書には単にうやまいつゝしむこととありますが、敬は聖門の第一義で聖賢の千言万語は帰するところ敬の一字で、その敬を主として窮理をなすべきだという、当時の日本の官学として栄えていた朱子学の精神に則ったものと思えます。

和魂洋才、その言葉どおり如何に洋才をとり入れようとも、その魂は日本人の永い伝統の精神を忘れないという確固たる教育への信念が、この校名に秘められているわけです。

当時の乏しい財政では、学校の創設は困難を極めました。そこで特志家の寄附金をあおぎ、設備や人件費などを賄った学校、それが義校で授業料も徴収されたといえます。

戦後教育が物質的には成功しましたが、精神面での欠陥を暴露している今日、私達の先輩がこの敬恪の心を第一義として洋才をとり入れるべき事に努めた精神こそ学ぶべきだと思えます。

新しい時代に生きる少年達を、豊かな心の持主であると同時に、創意に富み、さらには国際社会に尊敬されるような真の日本人として育成することは、今日の教育課題であります。

市制二十周年を迎えた稲羽西小学校は、教育の質的改善に全力投球をしておられますが、この榮譽ある敬恪義校の伝統の上に立ちさらに一層の発展をとげられんことを願って発刊お祝いのことばといたします。



うるわしき稲羽西小学校

各務原市教育委員 野 沢 二三男

このたび稲羽西小学校が百十周年(二十年)を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

新春を迎えたばかりの或る日、稲羽西小の校門に私は一人立ってみました。そほ降る雨の中、校舎も生垣もひっそりとぬれていました。木々はざわめきの消えた校庭に、やがて迎える喜びの日を、心ひそかに待っているかのようにありました。

見上げれば、どっしりとした校舎は、こよなき色合いに風格を滲ませ、周りと良く調和し、歴史の移り変わりを語りかけてくるようでありました。

その昔小学校の柱屋根に

我が投げしまりいかになりけむ

歌人石川啄木は故郷の小学校を想い、この歌をよんでいます。私達はこの美しく稲羽に住み、先祖から稲西小を引きつぎ、今又心豊かな稲羽の子等に引きつぐことのできる幸せをかみしめています。この幸せを啄木は味わっていません。何故なら彼は「石もて追われるごとく」故里を去って行ったからです。

今度発行される記念誌の名簿には、二代三代に亘る人々の名もきつと沢山見られることでしょう。

愉快なことではありませんか。父が母校の小さな椅子で、一緒に給食を食べるなんて——。祖父が孫と一緒に母校の教室で歌うなんて——。

明るくうるわしき稲羽カラーは、こうして着実に次の世代へ引きつがれて行くことでしょう。稲羽西小学校万歳



創立110年をお祝いして

元PTA会長 岩 井 基 次

このたび、各務原市立稲羽西小学校が創立百十周年(二十年)、校史の節目を画される記念すべき年を迎えられますことは、誠に喜ばしく心からお慶び申し上げます。

本校は、明治6年敬恪義校として創立された稲羽西小学校も過去幾多の歴史を刻みつつ、現在の場所に位置を換え、校舎・体育館・プール等の設備も整い、名実ともに初等教育の場としての地位を築きつつありますが、これもひとえに、先生方をはじめ、PTAの皆様の教育に対する期待と情熱の結果が、この姿を生み出したものであり、心から敬意を表する次第でございます。

さて、わが国の科学技術の進歩と社会の変貌は、めざましいテンポで進みつつありますが、このような社会の発展は、教育の成果によってその基盤が培われるものでありまして、そのためにも教育に対する期待を一層高める必要があります。なかでも、小学校教育は、人間性豊かな児童を育成する重要な時期でもあります。貴校は、校訓に「よく学び」「よく働き」「よく遊び」を掲げておられますが、それらが日々の教育実践の中で実現しつつあることは喜ばしい限りであります。

百十年の歴史、これは非常に貴重なものがあります。この歴史をさらに意義あるものとし、将来の担い手である純真な子どもたちが、明るくたくましく成長することを願うとともに、伝統に輝く稲羽西小学校が今後ますます飛躍されることを期待してお祝いのことばといたします。



温故知新

元PTA会長 小島 香

稲羽西小の前身である敬格義校が創立されて、百十年、その後設立された更木小、この両校が市立稲羽西小となって、満二十年の歳月が流れました。

明治五年わが国に学制が頒布されてから、県下においても、最古の伝統を誇る稲羽西小の歴史を「百年史」という形で残すことが出来なかったかと思ひ、又何らかの形で残してほしいという願望を語り合ったことも、しばしばでした。

今回校長先生はじめ諸先生・PTA各位のご熱意とご努力により、「記念誌」を発刊されましたことを慶ぶと共に、その英断に対し心から感謝を捧げる次第です。

昨年四月のはじめ、川島町の豊田様より、「旧敬格小の鬼瓦を保持しているが貰ってほしい」という電話があり、早速学校に運びましたが、相前後して「記念誌」発刊の話しがもちあがり、何か因縁を感じずにはおられませんでした。

開校以来、校地の移転・学制の改革等、幾多の変遷の中で、発展しつづけて来た母校の歴史を想うとき、明治維新の嵐の中、明治五年の「学制頒布」をうけ、義金を募り敬格義校を興した先人のご遺業が偲ばれます。

今はただ「温故知新」あるのみ……

稲羽西小の限りない発展を祈ります。



発刊おめでとう

前PTA会長 森 隼

私が、中屋村役場と並んで建っていた敬格小学校に入学したのは、終戦の翌年でした。

一年生の受けもちは、目がねをかけた目の大きい先生でした。勉強が嫌いで、よく叱られましたから、先生の目が大きく見えたのかもしれません。

学校の思い出は、誰もが懐しいものですが、まだ純真な小学校の頃の思ひは、何年たっても新鮮に蘇えてくるものです。

我が母校、稲羽西小の前身、敬格義校が、美濃国羽栗郡下中屋村に創立されてから、今百十年を迎えるにあたり、今更ながら、時代の変遷と共に深い歴史の流れと学校教育の意義を思わずにおれません。

長い歴史に培われてきた風土、人々のあたたかさに触れて、大きな感動と誇りを持つのは、私一人ではないはずです。

この度、稲羽西小学校の記念誌発刊における学校関係者及びPTA諸氏の方々の、ご尽力に敬意を表し、心からのお祝いを申し上げます。

歴代校長



初代校長 小木曾 純

38. 4 ~ 41. 3

岐阜市長森切通



第二代校長 高木 忠三

41. 4 ~ 43. 3

岐阜市長森北一色1914



第三代校長 森 泰三

43. 4 ~ 45. 3

各務原市雄飛が丘



第四代校長 那波 秀雄

45. 4 ~ 47. 3

羽島郡岐南町下印食2627-3



第五代校長 村瀬 徹

47. 4 ~ 50. 3

岐阜市長良金碧町



第六代校長 藤本 吉三

50. 4 ~ 55. 3

揖斐郡大野町相洞乱戸 562-4



第七代校長 吉田 玲二

55. 4 ~

岐阜市長良白妙町2の11

歴代PTA会長及び三役



昭和 38 年度 (更木)
 会長 岩井 基次
 副会長 小島 大司



昭和 38 年度 (敬格)
 会長 河田 金博
 副会長 奥村 正二
 副会長 小島 薫
 副会長 小尾 光
 副会長 尾関 治
 副会長 横山 四郎



昭和 39 年度 (更木)
 会長 鈴木 高雄



昭和 39 年度 (敬格)
 会長 酒井 正男
 副会長 大塚 寛治
 副会長 奥村 義之
 副会長 大河 和七
 副会長 横山 四郎



昭和 40 年度 (更木)
 会長 鈴木 高雄



昭和 40 年度 (敬格)
 会長 小島 薫
 副会長 尾関 光
 副会長 森 郁夫
 副会長 奥村 清
 副会長 鈴木 荘一



昭和 41 年度
 会長 酒井 正男
 副会長 岩井 基次
 副会長 谷 昭二



昭和 42 年度
 会長 可児 唯二
 副会長 伊藤 憲助
 副会長 奥村 常三郎



昭和 43 年度

会 長 河 田 和 七
副会長 村 瀬 礼 二
副会長 岩 田 章



昭和 44 年度

会 長 小 島 芳 郎
副会長 苺 谷 民 夫
副会長 二 宮 春 光
副会長 丹 羽 隆 子



昭和 45 年度

会 長 栗 田 保 治
副会長 松 尾 要 治
副会長 丹 羽 政 勝
副会長 太 田 好 子



昭和 46 年度

会 長 井 川 卓 郎
副会長 小 島 道 雄
副会長 鈴 木 昭 夫
副会長 苺 谷 勢 子



昭和 47 年度

会 長 松 波 巖
副会長 岩 井 義 弘
副会長 小坂井 正 昭
副会長 永 繩 米 子



昭和 48 年度

会 長 森 朝 光
副会長 奥 村 修 一
副会長 伊 藤 多 助
副会長 栗 田 寸 子



昭和 49 年度

会 長 佐 藤 博 一
副会長 小 島 由 光
副会長 柴 山 三 郎
副会長 河 田 喜 美 恵



昭和 50 年度

会 長 小 島 香
副会長 苺 谷 正 司
副会長 多和田 敬 一
副会長 林 美 代 子

ERPTA 会長 三任



昭和 51 年度

会 長 柴 山 三 郎
副会長 丹 羽 和 浩
副会長 松 尾 三 雄
副会長 神 野 智恵子



昭和 52 年度

会 長 尾 関 充 男
副会長 宮 崎 一 郎
副会長 可 児 剛
副会長 奥 村 すす子



昭和 53 年度

会 長 松 尾 明
副会長 奥 村 政之助
副会長 森 正 俊
副会長 奥 村 一 恵



昭和 54 年度

会 長 早 野 武 平
副会長 荻 谷 啓 二
副会長 伊 藤 昇 子
副会長 稲 葉 君 子



昭和 55 年度

会 長 沢 井 道 雄
副会長 坂 井 利 博
副会長 小 島 義 博
副会長 荻 谷 多美子



昭和 56 年度

会 長 森 縯
副会長 尾 関 昭 司
副会長 二 宮 恒 夫
副会長 豊 田 昌 子



昭和 57 年度

会 長 赤 地 節 男
副会長 奥 村 進
副会長 奥 村 守 浩
副会長 岩 井 節 子

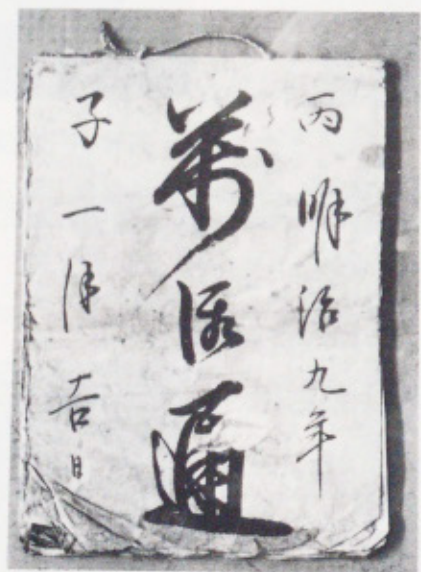


平二昇子
武啓君

目次

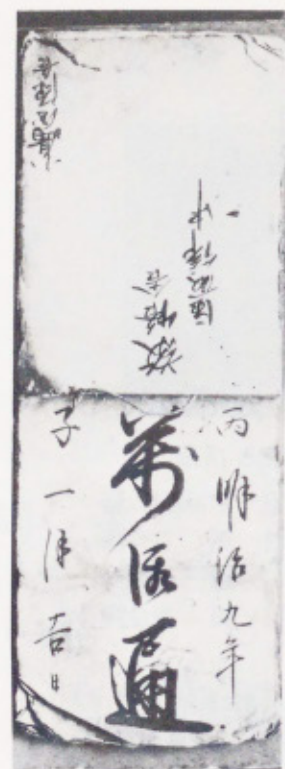
- お祝いのことば
- 歴代校長 7
- 歴代P T A 会長 8
- 沿革誌 15
- OB・現役職員名簿 69
- 卒業生名簿 71
- 在校生名簿 133

敬
恪
義
校
M.6

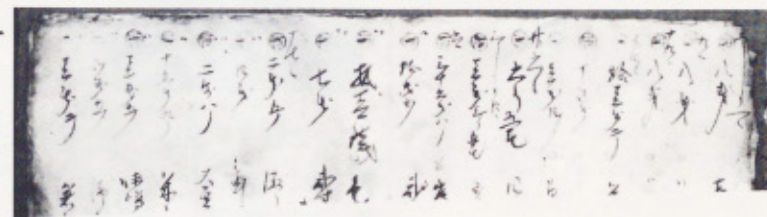
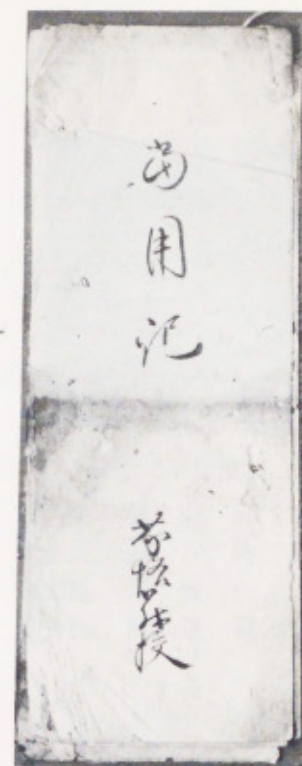


敬恪尋常高等小學校 M27
敬恪尋常小學校 M26

亞木尋常小學校
小任野尋常小學校



敬恪國民子校 S16





創設のころ

敬恪義校の創立

明治六年五月三十日創立。男子教員三名。男子生徒三十一名、女子生徒九名で
発足。主者 小島菊太郎。

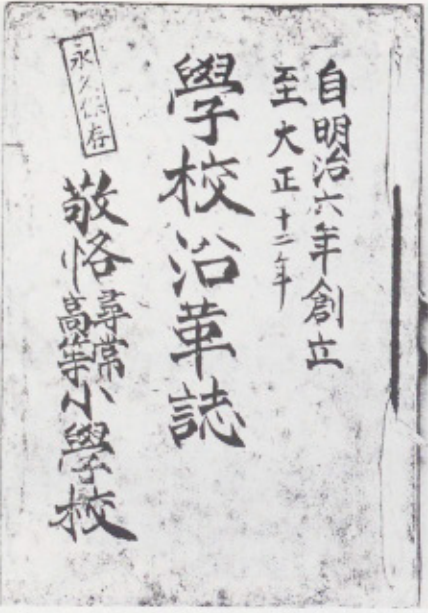


初代敬恪義校の門扉

明治六年末の作。木製の造り込みになっており、きめの細かい仕事がしてある。
小島寿昭氏より学校に寄贈。

本
作
終
日
治
二
十
七
年
八
月
二
日
高

校舎ヲ修繕ス明治二十七年八月二日高
 セラル全年七月地方税補助金ヲ受ケ
 ヲ下中屋村ニ置ク事ヲ郡長ヨリ指定



本校に厳存されている学校の沿革誌の表紙 左右の文章は、その第一頁に記入されている内容で、原文のまま。

二代目校舎は「小島源左エ門氏の織物工場（当時は織屋の学校ともいった。現代流に言えば、織物の研究所）の建物を使用した。」という。



初代義校の跡地



二代目 義校の跡地（現在の堤防下）



二代目 校地の石垣

明治六年五月學制ヲ遵奉シ下中屋村
 外十四ヶ村聯合シテ一ノ學校ヲ創設
 ス名ケテ敬恪義校ト稱ス校舎ハ人家
 ヲ假用ス全七年一月山脇下切松本小
 網ノ四ヶ村分離枝校ヲ設立ス全八年

明治6年5月
 下中屋村外14ヶ村
 統合して、学校を
 創設す。名付けて
 敬恪学校と称す。
 校舎は、人家使用
 す。

明治7年1月
 山脇・下切・松本
 ・小網の4ヶ村分
 離す。

初代敬恪義校の校舎(現存)を撮影したもので、柱の太さ・組みの確かさなど、目をみはらせることばかりである。



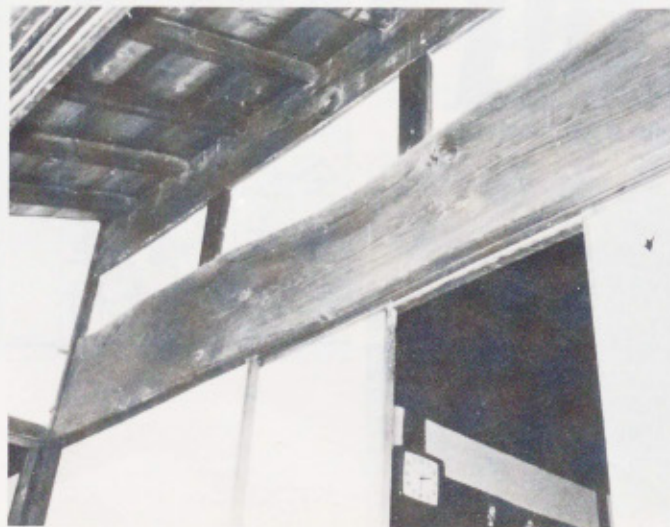
敬恪義校当時の鬼瓦 (菊の花の紋章が入っている)



敬恪義校の屋根の棟 (大人の腰までの高さ)

明治8年1月
校舎新築落成す。

明治8年6月
開校式を挙行す。
米野・手島の両村
分離す。



敬恪義校廊下天井

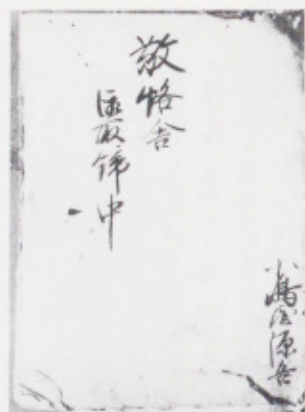
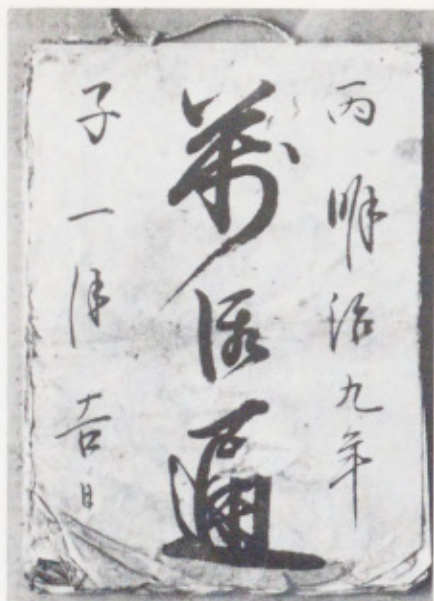


(床の高さは神社の拝殿の高さほどあったものを切って低くしたという。)

敬恪義校
取締
中

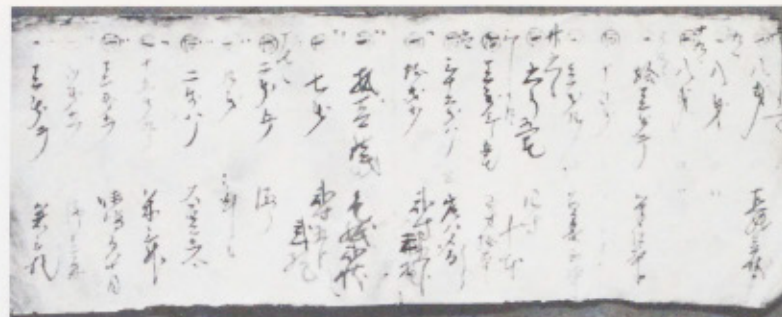
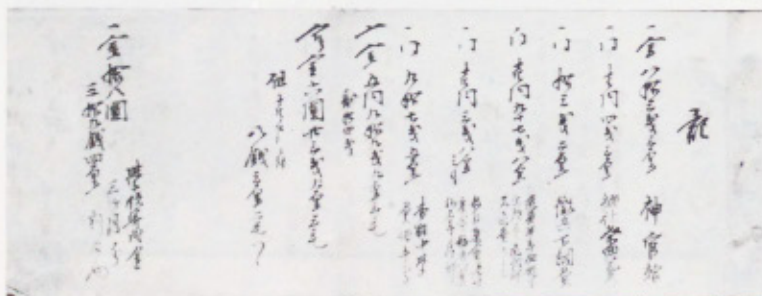
授業料

「土地の状況によって、その額を異にするが、大抵一ヶ月多きも五十六銭を越えず、少きも一銭を下らなかつた。」

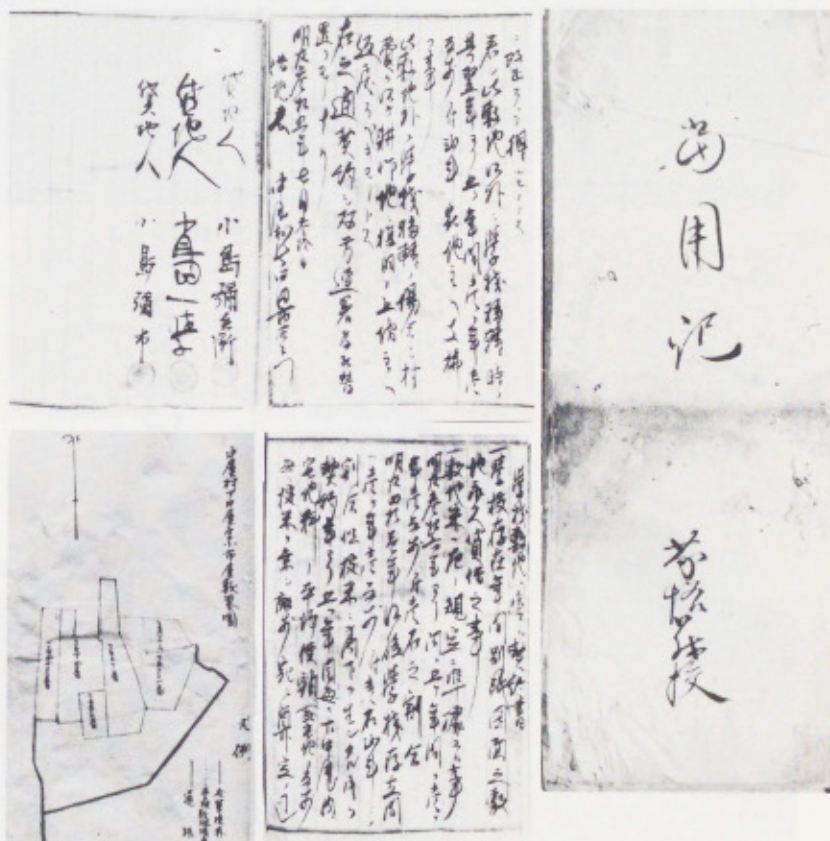


学校の諸経費を記入した「よろずかよい帳」の表紙とその裏面。

学校に関することなどを記載した帳面で、右は校地を借すことの契約書と図面。下は、その内容の例。

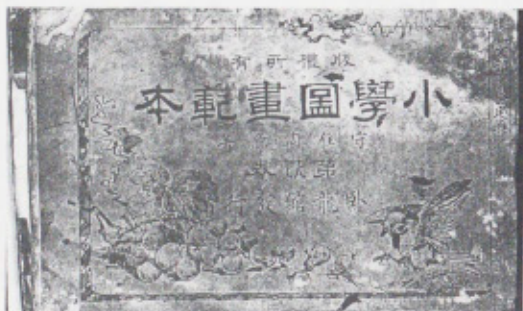


「よろずかよい帳」の内部



明治19年の学校令により、高等、尋常の二等（修業年限を各4箇年）としたが、土地の状況により小学簡易科（修業年限を3箇年以内）を設け尋常小学科に代用した。
下中屋村敬格尋常小学校（尋常科、簡易科）

敬格尋常高等小学校のころ



校旗

本日 地理大要目次

第一卷 發端

第二章 土地

第二卷

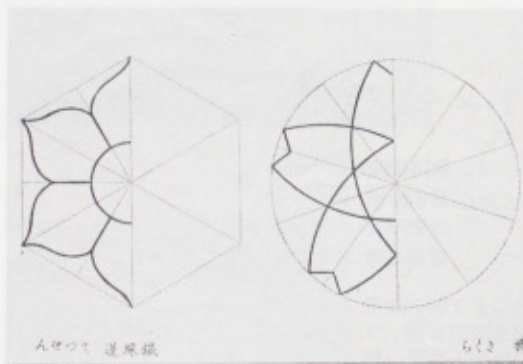
第三章 河海

第四章 氣候

第五章 動植物

第六章 人民

第七章 政治



小学校図画範本（明治26年）

日本地理（明治27年 全国の名を歌にして憶えさせている。）

駿河ふ甲斐に伊豆相模
下總常陸ととよ又
三東山道へ東の方
上野下野岩代よ
陸奥羽前ふ羽後の國
山よのふよる地方あり
餐管にたよ一山脈の
若狭越前加賀能登と
四山陰道の西南の
丹波丹後や但馬の國

武蔵に安房
沖よ左左
道江美濃越前
磐城陸前陸
初め七國海
北陸道の都
西北よ治よ
越中越後
其山脈に治
因幡伯耆や

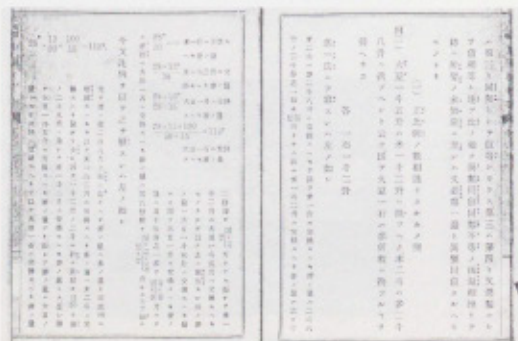
一かのつらなる山川の
全國一級八道と
一級ハ畿内八道ハ
山陰山陽南海と
二級内ハ京都に程近き
和泉攝津の五個國
畿内よつづく國々の
伊賀伊勢志摩尾張路也

地形よ從ひ
會十二個の
東海東北
西海道ふ北
山城大和河
東海道ハそ
太平洋よ如
三河の國や

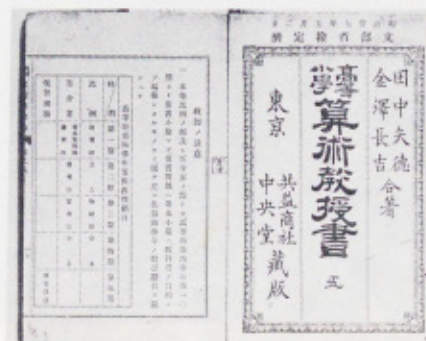
分るたるふとより一々其國名をも
に又長歌よ綴りよて之を歌い

編輯者 任寸
發行者 過
印刷者 沼尻
發兌 普石

明治27年8月2日
高等小学校を設立し、敬格尋常高等小学校と称す。



高等小学校の算数教科書（明治27年）



小学校の教科

修身、読書、作文、習字、算術、体操、図画、唱歌

高等科の教科

修身、読書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科、図画、唱歌、体操、裁縫、2年以上に手工。3年以上に手工、農業、商業、4年には英語も可とした。

更木尋常高等小学校のころ



校旗

明治廿七年
 三月 第一回学年試験執行
 九月廿九日
 西陛下御安影ヲ奉戴シ其式ヲ行フ
 勅語謄本御下賜
 卒業生 拾名



小佐野小学校の屋根瓦（現在）



小佐野尋常小学校舎（現在）

起原
 本校はもと岐阜縣羽栗郡下中屋村（今羽栗郡中屋村）公立敬修尋常小
 校に併置せしが自治制實現後結果明治廿六年四月各務郡小佐
 村（今稲葉郡更木村一部）を分割し小佐野三井大野上白ノ四ヶ
 村（今更木村全部）合同して組合立小佐野尋常小学校を設立し臨時
 村五十四番戸の仮校舎に充て授業を開始ス

沿革史

明治 26 年 4 月
 組合立小佐野尋常
 小学校を設立。
 仮校舎で授業を開
 始。

明治 26 年 11 月 3 日
 小佐野村 新辺野
 の山林地内に新校
 舎完成。

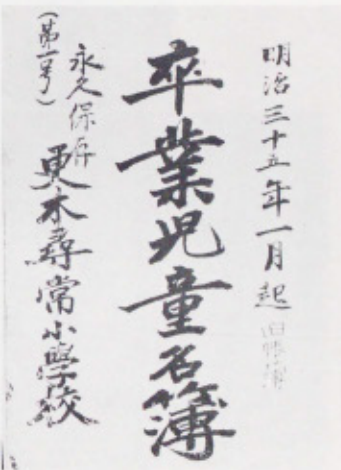
明治 30 年 4 月 1 日
 更木尋常小学校と
 改称。



修業証書（明治 25 年）

卒業児童名簿

第一回	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
姓名	山田 太郎	佐藤 一郎	田中 三郎	鈴木 五郎	高橋 七郎	中村 九郎	山本 十一郎	佐々木 十三郎	渡辺 十五郎	山崎 十七郎
生年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年	明治 26 年
卒業	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年	明治 30 年



本日 地理大要目次
 第一卷
 第一章 發端

分るたるより一々其國名をも
 に又長歌と綴りて之を歌ハ
 一のつらら山川の 地形よ説ひ

算術、体操、図画、

算術、地理、歴史、
 裁縫、2年以上に
 農業、商業、4年に

修業證書

岐阜縣立
横山貞市
明治三十年一月生

尋常小學校第一學年
課程ヲ修業セシコトヲ證ス

新編
明治三十年三月一日
尋常小學校

岐阜縣羽島郡中屋村立
敬信尋常小學校

第十二編

小學校教科用書



尋常小學校讀本

明治二十年五月文部省編輯局

尋常小學校讀本卷之二

目次
學校

咲け花よ
妹の姉をまんぜつにする話
狼ごかにどの話 (三章)
人形の舟遊び
かたつぶり

三四四

狼ごかにどの話 一
むかし狼とかにとあり、かにには、或る
きさちやうにて、にぎりめしを拾へり。狼
は、又柿の種を拾へり。狼は、かにを
だまし、にぎりめしを取りかへたり。
かに、その種を持ちかへり、早く芽を出せ
柿の種、出さぬと、さきみではさみさる

り、と、さき、起に
砕けり。其後かに
ハ、まいあさ、行きて
見、に、柿の種を、
芽を出たせり。
かに、芽を見て
喜び、早く花咲け柿
の木、ハ、咲かぬと、さきみではさみさる



教科書 (明治28年)

教科書 (明治28年)

修業証書 (明治28年)

在籍児童及学級編成数

明治三十年		明治三十一年		明治三十二年		明治三十三年	
高	尋	高	尋	高	尋	高	尋
男	115	男	145	男	122	男	134
女	151	女	155	女	196	女	177
計	266	計	300	計	318	計	311
高	1	高	1	高	2	高	3
尋	4	尋	4	尋	4	尋	4
計	5	計	5	計	6	計	7

在籍児童及学級編成数
明治十九年以前不詳

尋常科卒業
横山貞一
賞トシテ頭書ニ通授
與ス
明治三十一年三月十日

敬信尋常小學校

卒業賞として
副賞があった。
(明治31年)

卒業證書
岐阜縣立
横山貞一
明治三十一年七月生

尋常小學校
卒業セシコトヲ證ス
明治三十一年三月廿三日
岐阜縣羽島郡中屋村立
敬信尋常小學校校長永島碩彦

卒業證書 (明治31年)

修業證書
岐阜縣立
横山貞市
明治三十年

修業證書
岐阜縣立
宮田 敏造
尋常小學校第一學年
課程ヲ修業セシコトヲ證ス
明治三十年三月廿七日
岐阜縣事務部
第四七號

修業證書 (明治30年)

岐阜縣史談
編纂 土官
本書は本縣小學校教則ノ主眼ニ基キ高小
學校第一學年大凡前半期間ニ於テ本縣ノ
史ニ關スル事項ヲ兒童ノ學習ニハ
ナリトシテ
本書材料ノ選擇ハ左古ヨリ現時ニ至ル
ニ關スル事項ヲ範圍シテ兒童ノ學習
程度ヲ考慮シ以テ編纂ス
本書編纂ノ體裁ハ美濃通覽ノ再刊ニ
準テ

教科書 (岐阜縣史談)

岐阜縣史談
編纂 土官
岐阜縣教育會藏版

賞狀
第一學年 宮崎せき
三等賞
出席勤勉ニ付キ之ヲ
賞與ス
明治三十五年三月廿七日
更木尋常小學校

賞狀 (明治35年)

新定地誌
文學社

新定地誌

證
右者左記學科ノ講習ヲ修了セシ
コトヲ證ス
博物 講 岐阜縣立更木尋常小學校
生理 講 岐阜縣立更木尋常小學校
体操 講 岐阜縣立更木尋常小學校
右講師ノ證明ヲ認シ此證書
授與ス
明治三十四年八月二十七日
岐阜縣事務部
岐阜縣立更木尋常小學校

講師の證明 (昭和34年)

修業證書
岐阜縣立
與村 破市
尋常小學校第二學年
課程ヲ修業セシコトヲ證ス
明治三十四年三月廿七日
岐阜縣事務部
第一六號
修業證書 (明治34年)

明治33年8月18日
勅令をもって小学校
校令を改正。
授業料を徴収しな
いようになった。
旧令には、義務教
育年限を3年若し
くは4年としたが、
これを4年に改め
た。
読書、作文、習字
を単に国語の一科
に包括した。漢字
を制限し、字音假
名遣いとした。教
科書は国定制度と
なった。

小学校身体検査表

年齢	九、三	性別	男	身長	一四〇	胸圍	一〇七	腕圍	一七	視力	正	聴力	正	歯牙	正	體質	上	検査日	二十一年一月
----	-----	----	---	----	-----	----	-----	----	----	----	---	----	---	----	---	----	---	-----	--------

小学校身体検査表 (明治32年)

日六十月一年七廿

文部省検定済

三宅米吉校閱
中根淑編纂
渡邊政吉編纂

東京 金港堂書籍會社

實日本修身書卷二 高等小學
生徒用



婦人は人に事ふるものなり家に居ては又母に事へ人に就しては別婦夫に事ふる故に細みて育かざるを痛む古人も教順へ婦人ノ次第ナリといへり然れば女は常に教順の二つを守るべし教とはつとむむな

実験日本修身書卷二 (明治33年頃使用)

天長節 十一月三日

羽島郡散格小學校

明治三十一年十一月三日

天長節の意義の印刷物 (明治32年)

高等小学 新体読本 (明治32年頃使用)

第一二三編 其

其の最も面白く読む所の時しは此編に逢ふ事最も多し其の上もはれども

其の最も面白く読む所の時しは此編に逢ふ事最も多し其の上もはれども

明治33年8月18日
勅令をもって小学校
校令を改正。
尋常小学校(4年)、
高等小学校(4年)
に分け、併置する
ときは、これを尋
常高等小学校とし
た。

修業證書

富田 飯藏

高等小学校第一學年
課程ヲ修業セシメテ證書

明治三十三年三月二十日

岐阜縣立散格小學校

第二七號

高等科 散格小學校

横山 貞市

右本學年試驗成績
優等ヲ頭書之通リ
賞與ス

明治三十三年三月二十日

敬格高等小學校

高等小学校修業證書
(明治33年)

学力賞↑

精勤賞→

敬格高等小學校

頭書之通リ賞與

右本學年中精勤

横山 貞市

敬格高等小學校

明治三十三年三月二十日

天長節 (十一月三日)

印刷物 (明治32年)

学校沿革誌 附設更木農業補習学校

明治三十七年	附設更木農業補習学校
明治三十八年	...
明治三十九年	...
明治四十年	...
明治四十一年	...
明治四十二年	...
明治四十三年	...
明治四十四年	...
明治四十五年	...
明治四十六年	...
明治四十七年	...
明治四十八年	...
明治四十九年	...
明治五十年	...
明治五十一年	...
明治五十二年	...
明治五十三年	...
明治五十四年	...
明治五十五年	...
明治五十六年	...
明治五十七年	...
明治五十八年	...
明治五十九年	...
明治六十年	...
明治六十一年	...
明治六十二年	...
明治六十三年	...
明治六十四年	...
明治六十五年	...
明治六十六年	...
明治六十七年	...
明治六十八年	...
明治六十九年	...
明治七十年	...
明治七十一年	...
明治七十二年	...
明治七十三年	...
明治七十四年	...
明治七十五年	...
明治七十六年	...
明治七十七年	...
明治七十八年	...
明治七十九年	...
明治八十年	...
明治八十一年	...
明治八十二年	...
明治八十三年	...
明治八十四年	...
明治八十五年	...
明治八十六年	...
明治八十七年	...
明治八十八年	...
明治八十九年	...
明治九十年	...
明治九十一年	...
明治九十二年	...
明治九十三年	...
明治九十四年	...
明治九十五年	...
明治九十六年	...
明治九十七年	...
明治九十八年	...
明治九十九年	...
明治一百年	...

大正七年一月
学校沿革誌
 永久保存 附設更木農業補習学校

初等農業教科書

農業教科書上巻目次

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	
...

明治39年11月16日
 農業補習学校附設
 の件認可。

同 年12月20日
 授業開始。

修業證書
 富田 銀藏

小学校修業證書
 (明治33年)

稲葉郡更木並常小学校
 第二學年兒童
 富田 弁つ
 明治廿八年五月生

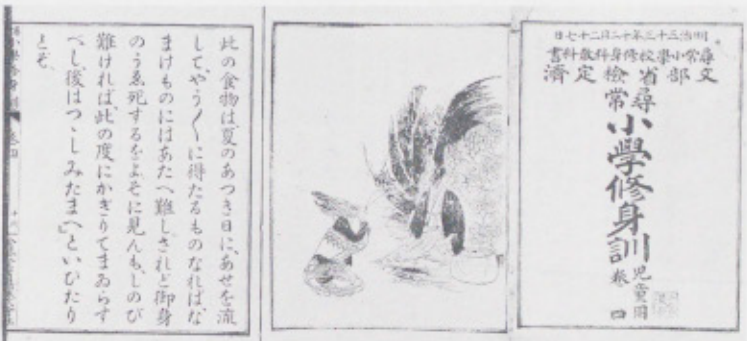
一雜記帳壹冊

右ハ操行佳良學業優
 等十九ニヨリ頭書ノ物品
 ヲ賞與ス

明治三十七年三月廿六日

岐阜縣稻葉郡長正七位勲三等澤田乙三

賞 状 (明治37年)



教科書 (修身)

明治42年6月6日
校舎増築完成。

明治40年3月20日
小学校令を改正して、尋常小学校の修学年限を6箇年に延長した。そのため、高等小学校は2箇年とし、延長して3箇年とすることを得せしめた。」

高等小學讀本 卷二
文部省

教科書 (明治44年)

一、第四編 森林
二、第五編 森林
三、第六編 森林



記念写真 (明治43年)

褒状
第二號
學力優等
品行方正
頭書ノ事由ニ依リ
褒状ヲ授與ス
明治三十九年三月五日
岐阜縣稲葉郡東村東尋常學校

褒状 (明治39年)

畢業證書
尋常小學校ノ教科
卒業セシコトヲ證ス
明治三十九年十月九日
宮崎以志亮
岐阜縣平民
岐阜縣稲葉郡東村東尋常學校校長 宮崎以志亮

卒業証書 (明治44年)

文部省著作 第三學年用下
高等小學書キ方手本
發行所 日本書籍株式會社
見る見る百萬の人家倉庫神社佛壇
倒るあり崩るあり家にしかれ瓦に
打たれて死せしはいくばくなまを知らず

教科書 (明治39年)

松倉小學校參觀記
志し給也月武登色知本前元時高年三十四
年三延同又教師了考松倉小學校起事申
年三延同又教師了考松倉小學校起事申

感想文

校訓
一、誠心
二、勤學
三、禮節
四、勇敢
五、忍耐
六、謙遜
七、忍耐
八、忍耐

校歌
一、校歌
二、校歌
三、校歌
四、校歌
五、校歌
六、校歌
七、校歌
八、校歌



兒童在籍		兒童就學										校下		御影奉戴		
科	常	就學					不					人口	現住	町村區名	明正七年五月廿九日	
		合計	除其他	疾病	貧窮	其他	合計	除其他	疾病	貧窮	其他					
第一學年	男
第一學年	女
...

此早縣稻葉郡更木尋常小學校一覽表

大正二年四月三十日現在

...

更木尋常小學校一覽表 (大正2年4月30日現在)

修業證書

奥村 貞江

尋常小學校第一學年

課程ヲ修了セシコトヲ證ス

大正三年三月二十八日

...

修業證書 (大正3年)

修業證書

岩田 忠夫

尋常小學校第五學年

課程ヲ修了セシコトヲ證ス

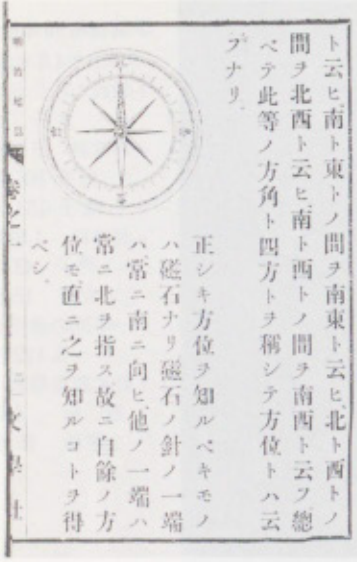
大正八年三月二十八日

...

修業證書 (大正8年)

大正6年4月1日
高等科を併置。

大正8年2月6日
小学校令改正。翌月29日、小学令施行規則の改正がなされた。



ト云ヒ南ト東トノ間ヲ南東ト云ヒ北ト西トノ間ヲ北西ト云ヒ南ト西トノ間ヲ南西ト云フ總ベテ此等ノ方角ト四方トヲ稱シテ方位トハ云フナリ。

正シキ方位ヲ知ルベキモノハ磁石ナリ磁石ノ針ノ一端ハ常ニ南ニ向ヒ他ノ一端ハ常ニ北ヲ指ス故ニ自餘ノ方位モ直ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ。

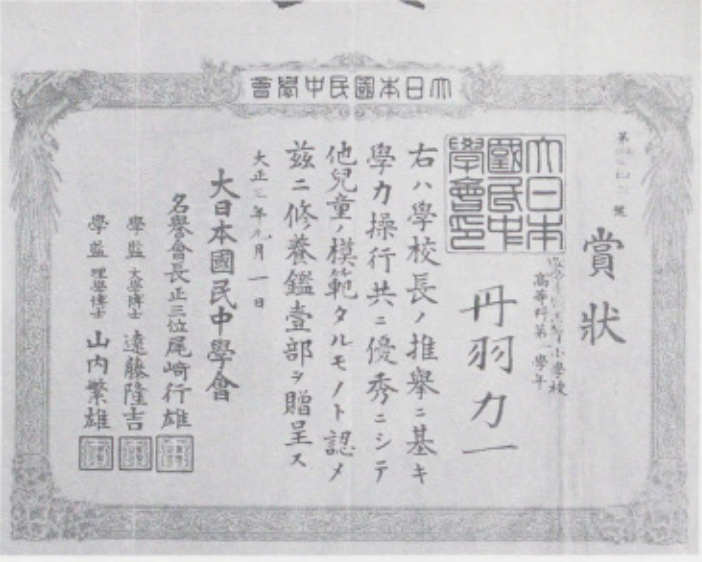
教科書（明治地誌）



東トハ日ノ出ヅル方ヲ云ヒ西トハ日ノ入ル方ヲ云フ圖ニ示シタル兒童ハ右ノ手ニテ東ヲ指シ左ノ手ニテ西ヲ指セリ此兒童ノ前ノ方ヲ北トシ後ノ方ヲ南トス面シテ此東西南北ヲ四方ト云フ。

又北ト東トノ間ヲ北東ト云フ。

同内容



大日本國民中學會
名譽會長 正三位尾崎行雄
學監 大藏卿 遠藤隆吉
學監 理學博士 山内繁雄

右ハ學校長ノ推舉ニ基キ學力操行共ニ優秀ニシテ他兒童ノ模範タルモノト認メ茲ニ修養鑑壹部ヲ贈呈ス

大正二年八月一日

大日本國民中學會

賞狀
丹羽カ一

賞 狀（尾崎行雄會長名がある）

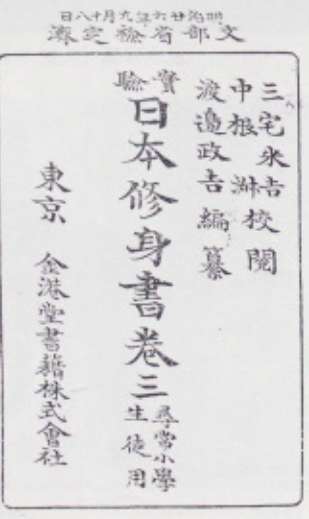
卒業證書の裏面に記入された文（大正2年）

ことなり。朝は早く起きて、父のたきいづるをまろ、其の外に出づる時は、たくりむかへをなべて、ねんごろにいたはりたり。

父母年老いてのちは、ねほかたかたはらをはなれず、出入には



市郎兵衛は、幼き時より、よく父母のおんぜをまもり、又つねに敬ひ尊びて、かりずめにも、敬禮をかきたる

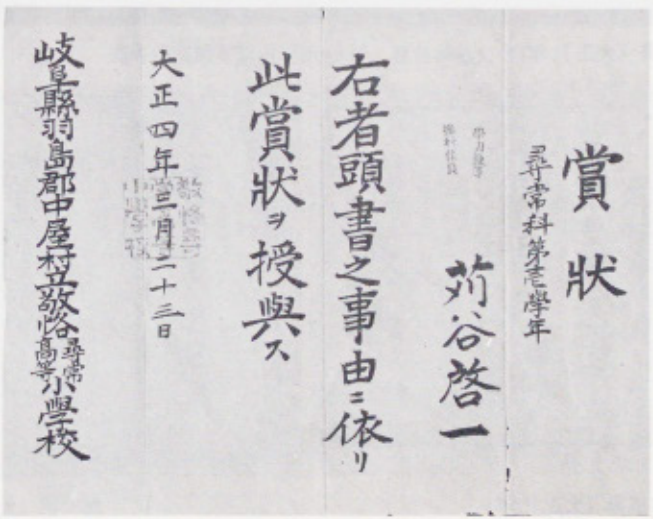


三宅朱吉校閲
中根 游校 閣
波邊政吉編纂

賞 狀
日本修身書卷三 尋常小學
生後 用

東京 金港堂書籍株式會社

実験日本修身書卷三（大正2年）



賞 狀
尋常科尋常學年
荻谷啓一

右者頭書之事由ニ依リ
此賞狀ヲ授與ス

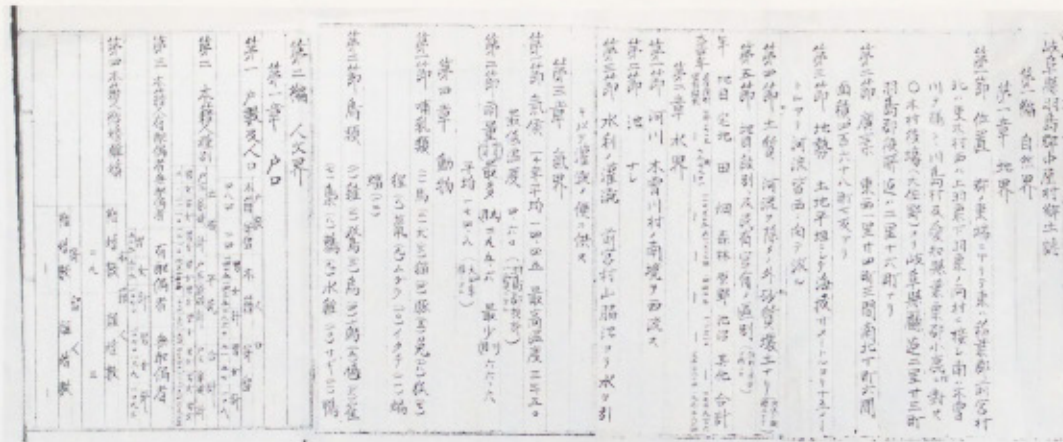
大正四年三月二十三日

岐阜縣羽島郡中屋村立敬路尋常小學校

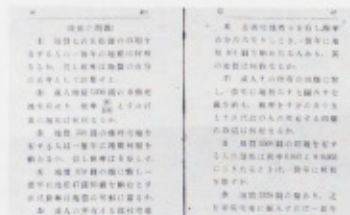
賞 狀（校長名が入っていない）



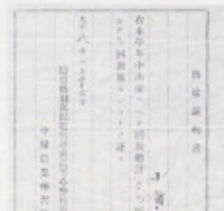
更木尋常併設青



羽島郡中屋村郷土誌 (大正4年1月13日)



尋常小学校算術書 (6年生)



出席証明書 (中屋農業補習学校)



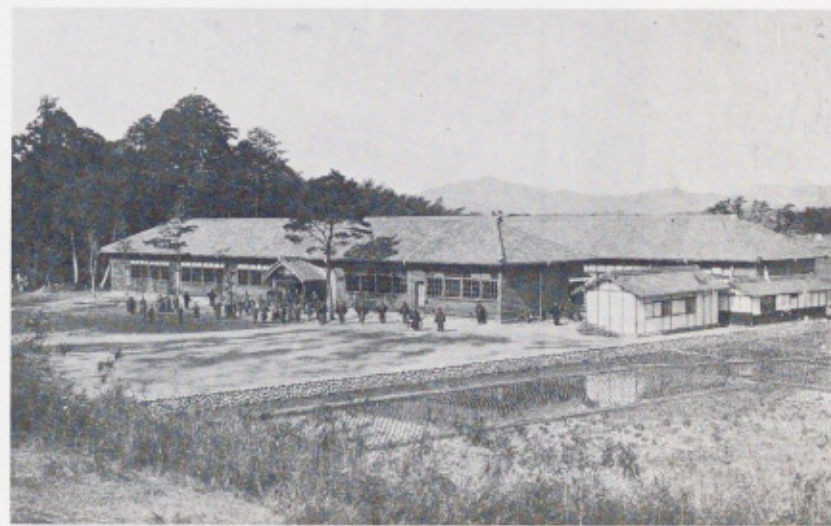
尋常小学読本 (巻三)

大正8年9月9日
新校舎一棟落成。

大正8年11月3日
旧校舎を新校舎の
北部に移転。改築
落成。



村の学校管理者



校舎全景



更木校下略図 (昭和初期)



せんだんの木 (せんだん教育が行われた)

学年	人数	男	女	合計	備考
1年	12	6	6	12	
2年	10	5	5	10	
3年	8	4	4	8	
4年	6	3	3	6	
5年	4	2	2	4	
6年	2	1	1	2	
合計	42	21	21	42	

更木小学校一覧表 (昭和9年)

行事名	実施日時	内容
入学式	9月1日	新入生を迎え、校長訓話、国歌斉唱、校歌斉唱、給食、退会式
開校式	9月1日	開校記念式典、校旗掲揚、校歌斉唱、給食
運動会	10月10日	40分組対抗、種目別対抗、種目別対抗、種目別対抗、種目別対抗
文化祭	11月10日	演劇、音楽、美術、書道、体育、遊藝、給食
卒業式	5月10日	卒業生を送る会、校長訓話、国歌斉唱、校歌斉唱、給食

主な学校行事

昭和3年10月15日
校舎一棟新築落成
す。

通知票の裏

自一月廿七日	冬期休業
至一月廿七日	冬期休業
一月一日	新年拜賀式
三月一日	元始祭
八月八日	第三學期始業式
二月十一日	紀元節
全日	憲法發布紀念日
三月六日	地久節
十日	陸軍紀念日
廿日	春季皇靈祭
廿日	証書授與式

学年歴

通知票の裏

九月廿四日	秋季皇靈祭
十月十三日	戊申詔書下賜紀念日
日	學校所在地發興
十七日	神嘗祭
三十日	勅語下賜紀念日
十一月十日	國民精神作興詔書下賜紀念日
十二月廿三日	新嘗祭
三月廿五日	大正天皇祭
廿八日	第二學期終業式

学年歴

暦年學

四月一日	入學式
二日	始業式
三日	神武天皇祭
十一日	照憲皇太后祭
廿九日	天長節
五月廿七日	海軍紀念日
七月二十日	第一學期終業式
自八月二日	夏期休業
至八月廿五日	第二學期始業式

学年歴

通知票の一部 (昭和5年)

學業成績	身體検査	評定	
		男	女
第一學期	身長 119.2 体重 25.8 胸囲 58.2	優	良
第二學期	身長 120.0 体重 26.5 胸囲 59.0	優	良
第三學期	身長 121.0 体重 27.5 胸囲 60.0	優	良
第四學期	身長 122.0 体重 28.5 胸囲 61.0	優	良
第五學期	身長 123.0 体重 29.5 胸囲 62.0	優	良
第六學期	身長 124.0 体重 30.5 胸囲 63.0	優	良
第七學期	身長 125.0 体重 31.5 胸囲 64.0	優	良
第八學期	身長 126.0 体重 32.5 胸囲 65.0	優	良
第九學期	身長 127.0 体重 33.5 胸囲 66.0	優	良
第十學期	身長 128.0 体重 34.5 胸囲 67.0	優	良
第十一學期	身長 129.0 体重 35.5 胸囲 68.0	優	良
第十二學期	身長 130.0 体重 36.5 胸囲 69.0	優	良
第十三學期	身長 131.0 体重 37.5 胸囲 70.0	優	良
第十四學期	身長 132.0 体重 38.5 胸囲 71.0	優	良
第十五學期	身長 133.0 体重 39.5 胸囲 72.0	優	良
第十六學期	身長 134.0 体重 40.5 胸囲 73.0	優	良
第十七學期	身長 135.0 体重 41.5 胸囲 74.0	優	良
第十八學期	身長 136.0 体重 42.5 胸囲 75.0	優	良
第十九學期	身長 137.0 体重 43.5 胸囲 76.0	優	良
第二十學期	身長 138.0 体重 44.5 胸囲 77.0	優	良

羽島郡敬修高等小学校一覽表

学年	学級	人数	担任	学年	学級	人数	担任
第一学級	第一学級	25	田中	第一学級	第一学級	25	田中
第二学級	第二学級	25	田中	第二学級	第二学級	25	田中
第三学級	第三学級	25	田中	第三学級	第三学級	25	田中
第四学級	第四学級	25	田中	第四学級	第四学級	25	田中
第五学級	第五学級	25	田中	第五学級	第五学級	25	田中
第六学級	第六学級	25	田中	第六学級	第六学級	25	田中
第七学級	第七学級	25	田中	第七学級	第七学級	25	田中
第八学級	第八学級	25	田中	第八学級	第八学級	25	田中
第九学級	第九学級	25	田中	第九学級	第九学級	25	田中
第十学級	第十学級	25	田中	第十学級	第十学級	25	田中
第十一学級	第十一学級	25	田中	第十一学級	第十一学級	25	田中
第十二学級	第十二学級	25	田中	第十二学級	第十二学級	25	田中
第十三学級	第十三学級	25	田中	第十三学級	第十三学級	25	田中
第十四学級	第十四学級	25	田中	第十四学級	第十四学級	25	田中
第十五学級	第十五学級	25	田中	第十五学級	第十五学級	25	田中
第十六学級	第十六学級	25	田中	第十六学級	第十六学級	25	田中
第十七学級	第十七学級	25	田中	第十七学級	第十七学級	25	田中
第十八学級	第十八学級	25	田中	第十八学級	第十八学級	25	田中
第十九学級	第十九学級	25	田中	第十九学級	第十九学級	25	田中
第二十学級	第二十学級	25	田中	第二十学級	第二十学級	25	田中

羽島郡敬修高等小学校一覽表

和5年)

学年	男		女		合計
	人数	身長	人数	身長	
第一学年	12	120	10	115	22
第二学年	15	125	12	120	27
第三学年	18	130	15	125	33
第四学年	20	135	18	130	38
第五学年	22	140	20	135	42
第六学年	25	145	22	140	47
第七学年	28	150	25	145	53
第八学年	30	155	28	150	58
第九学年	32	160	30	155	62
第十学年	35	165	32	160	67
第十一学年	38	170	35	165	73
第十二学年	40	175	38	170	78
第十三学年	42	180	40	175	82
第十四学年	45	185	42	180	87
第十五学年	48	190	45	185	93
第十六学年	50	195	48	190	98
第十七学年	52	200	50	195	102
第十八学年	55	205	52	200	107
第十九学年	58	210	55	205	113
第二十学年	60	215	58	210	118

忠魂碑の建立 (昭和10年5月)



忠魂碑の除幕 (昭和10年5月)



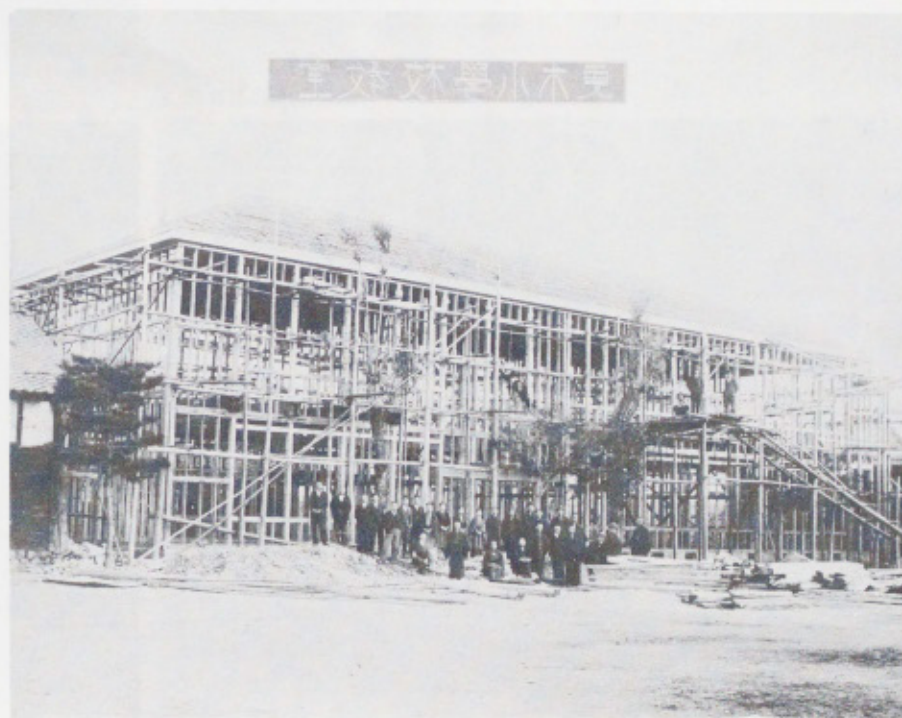
校地・校舎平面図

昭和十年
二月 校舎一棟増築
四月五日 校舎増築工事
八月十日 校舎増築工事
十月四日 校舎増築工事
昭和十一年一月 校舎増築工事

校長 森瀬仙一

学校沿革誌の一部 (昭和10年)

昭和10年5月
忠魂碑建設除幕。



更木校舎建設

賞状
 菅谷三重子
 頭書事由ニ依リ
 之ヲ授與ス
 昭和十四年三月二十七日
 岐阜縣羽島郡敬信村小學校

皆出席賞状

修身教科書



小学校女子卒業生（昭和11年度）

昭和14年12月2日
 校舎二階建一棟を
 増築す。

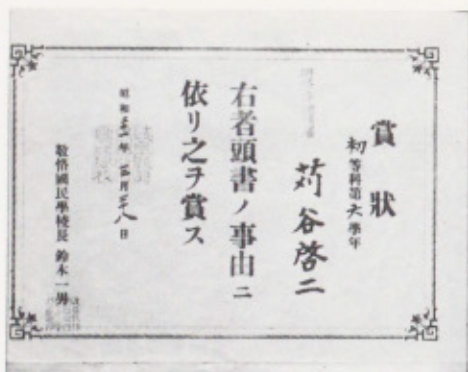


小学校男子卒業生（昭和11年度）

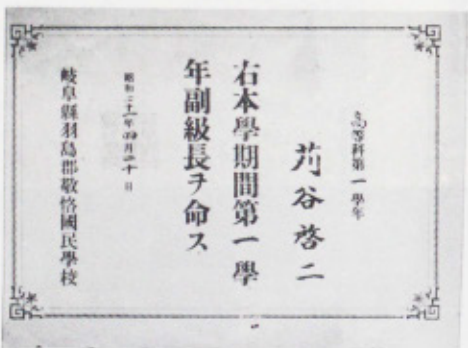


高等科卒業生（昭和11年度）

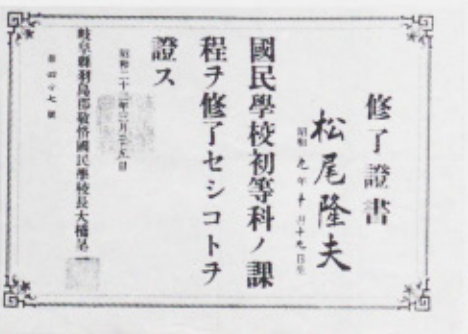
昭和16年4月1日
国民学校令実施に
依り、敬格国民学
校と称す。



賞状 (研学修練顕著)



任命書 (昭和21年)



修了證書 (昭和21年度)

通知表 (昭和19年)

通知表 (昭和19年)

		昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和20年	昭和21年
初等科	男	215	224	253	251	285	286
	女	218	206	201	207	253	247
計		432	470	454	458	538	533
高等科	男	67	54	44	45	54	53
	女	39	47	56	57	57	47
計		106	101	100	102	111	100
合計		538	531	554	560	649	633

児童数の統計 (昭和16~21年)

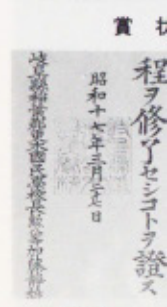
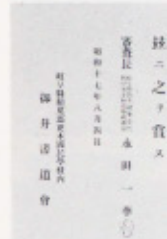


国語の教科書 (1年生)



第1回の卒業者名簿 (昭和17年3月)

第1回の卒業者名簿 (昭和17年3月)





卒業記念写真 (昭和22年度)



卒業記念写真 (昭和23年度)



卒業記念



卒業記念写真 (昭和26年度)



音楽会 (昭和27年度3年生)



記念写真 (昭和27年度1年)

更木村立更木小学校のころ

福葉 更木村立更木小学校一覽表 昭和27年5月1日現在

昭和27年4月30日現在 下更木村(現今更木町) 歌橋高等小中学校より分離して設置
 於て設置開始 今月1日30日校舎新築落成し7月30日開校 1/14校舎増築
 昭和27年4月30日現在 入校児童 16名 卒業児童 1名 在籍児童 15名
 所在地 更木村更木町更木小学校 電話 更木町 2978 交通上 更木町 更木小学校より徒歩10分

児童数	385	男子	198	女子	187
児童数	1407	男子	707	女子	700
児童数	2807	男子	1414	女子	1393
児童数	1491	男子	746	女子	745
児童数	1491	男子	746	女子	745
児童数	150	男子	75	女子	75
児童数	2229	男子	1114	女子	1115
児童数	2612	男子	1306	女子	1306
児童数	2421	男子	1210	女子	1211
児童数	3453	男子	1726	女子	1727
児童数	2124	男子	1062	女子	1062
児童数	1791	男子	895	女子	896

児童数	60,000	児童数	973
児童数	60,000	児童数	1178
児童数	55,000	児童数	
児童数	179,500	児童数	
児童数	374,500	児童数	
児童数	0	児童数	
児童数	374,500	児童数	
児童数	398,000	児童数	
児童数	426,928	児童数	73/9
児童数	330	児童数	3/0
児童数	58	児童数	7628
児童数	62,900	児童数	
児童数	57	児童数	
児童数	0.2	児童数	
児童数	0.2	児童数	
児童数	2.2	児童数	
児童数	1.83	児童数	



新校舎建設

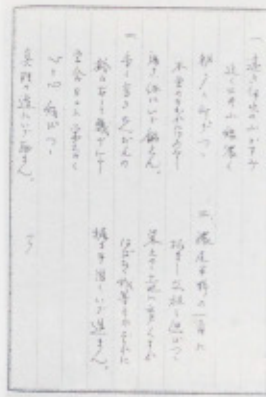
稲羽町立更木小学校のころ



傘の寄付 (育友会より)



学校の水のみ場



校歌

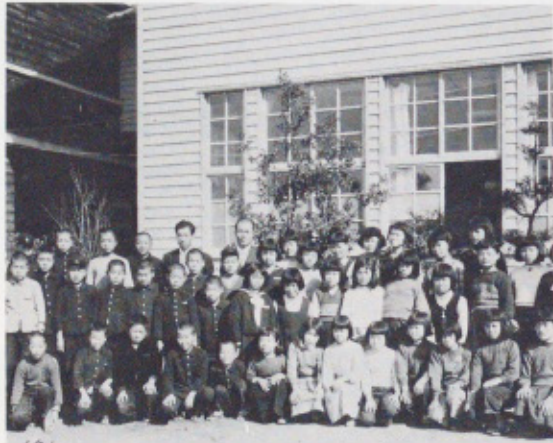


校庭

昭和30年2月1日
更木・中屋・前宮
の三村を合併し稲
羽町となり稲羽町
立更木小学校と改
称する。

昭和31年1月31日
校歌の発表会をす
る。

昭和31年9月30日
給食室新築。



昭和30年度 卒業生



昭和31年度 1年生



校庭



給食の時間



給食室



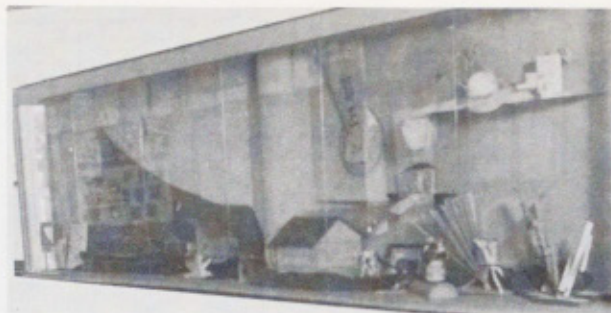
給食室



学芸会



家庭の伝言板



美の窓



しやわせの鐘



運動会 鼓笛行進



修学旅行 (若草山)

昭和 32 年 9 月
給食室完成。

昭和 33 年 2 月
図工研究発表会を
開く。

昭和 33 年 9 月
職員便所完成。
工事費 10 万円

昭和 33 年 11 月
石炭用のストーブ
を完備する。



授業風景



学級写真 (6の1)



つせの鐘



卒業記念写真（昭和31年度）



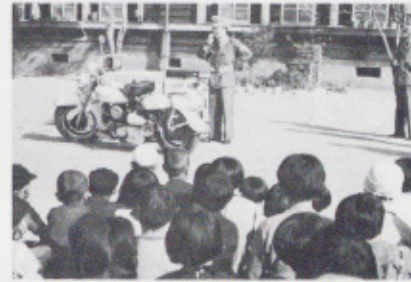
ボール運び



理科 資料室



PTA奉仕作業



交通安全教室



臨海学習（5年生）



音楽会



昭和32年度入学記念写真



昭和34年度入学記念写真

昭和34年

伊勢湾台風の被害あり。東の校舎が傾き(重度)、学校の周辺は冠水する。児童の家庭・母屋の倒壊20名。



卒業写真 6の3

昭和35年3月

8ミリ映写機・撮影機・スクリーン等を購入。視聴覚教育の充実をはかる。

昭和34年12月

トランジスタ時計13個設置す。(卒業生の寄付)



卒業生記念品
(はん登棒)

昭和36年6月

教育設備助成会に入る。



子ども測候所



運動会(組立体そう)



体育(器械)クラブ



理科(動物)



習字クラブ



体育(球技)クラブ



図画クラブ



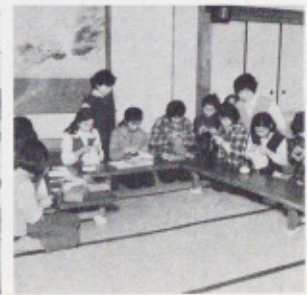
音楽クラブ



理科(植物)クラブ



工作クラブ



手芸クラブ